

## 1 「自然環境確認調査」について

「自然環境確認調査」は、本市の多様で豊かな自然と共生していくため、開発等により変化していく地域の自然環境を正確に把握することを目的とした事業であり、石巻市環境基本計画のリーディング・プロジェクトの一つとして平成19年度から10年間にわたり実施することとしている。

## 2 調査の内容

平成27年度は沼地、湿地地帯における主な抽水・浮葉・沈葉植物群落の調査を実施した。

## 3 調査対象地区及び調査事項

### 【平成27年度】

- ① 沼地、湿地地帯の植物群落調査（富士沼、押切沼、大沢堤）

## 4 調査方法

調査は、1箇所2、3時間で調査可能なコースを設定し、コースに沿って歩きながら観察を行い、現地調査の記録と植生調査票の記録に基づいて植物目録を作成する。絶滅危惧種等特記すべき種については生育状況その他について記録する。

調査に当たっては、自然林の優占種となる高木樹種、常緑樹種、レッドデータブック掲載種（絶滅危惧種等）、開花・結実しているものに留意して記録する。群落については、その群落の主な構成種を階層別に記録する。

## 5 記録の整理

記録に基づいて調査地区の自然環境についての考察を行い、確認事項を整理する。

## 6 調査期間

平成27年5月～10月

## 7 調査者・協力者

調査者：佐々木 豊 中間温帯植物研究所

協力：菅野 洋

齋藤 義樹

石巻市生活環境部環境課

## 富 士 沼

### はじめに

針岡地区にある富士沼は、東の鳥屋森(145m)と西の福地山(257.4m)の間に位置する、周囲約8kmの沼である。北上川の右岸に河口をもつ支流富士川の中流部に広がる淡水の沼で、沼に流入する沢の源は、硯上山(520.2m)、雄勝峠(405.2m)、水沼山(375m)など、標高の高い南方の山々である。

河北町誌上巻(1975・河北町)の富士沼の植物に関する記述は、「ヨシマコモの大群落、ミズトクサや海浜植物のハマナス、ハマエンドウなども豊富」と「富士沼、追波川、一軒沼、釜谷沼、蛇沼などの静水域や緩流域には藻類が繁茂している。これらの種類については未調査のものが多い」の2か所のみである。

宮城県東部土木事務所の調査資料(東日本大震災前)によると、シダ植物以上の維管束植物97種が記録されており、そのうち、宮城県のレッドデータブックで絶滅危惧I類(CR+EN)に位置づけされているエゾノミズタデと環境省のレッドリストに準絶滅危惧(NT)とランクされているミズアオイが記録されている。町誌の「繁茂している藻類」に該当する植物は、記録されていない。

東日本大震災後、津波とそれに伴う工事の影響を受けて、沼の様子は著しく変わって来ている。沼の北部の富士川流入口と東部の鳥屋森集落の湾入した所には、一段と高い堤防と石積みの護岸が設けられている。西岸は工事や車両の影響が大きく、路肩の崩れと水辺の自然の破壊が目につく。沼の南部には、新しく西側から土手が造られて、北にヒシを主にした浮葉植物群落、南にいろいろな抽水植物群落がみられる環境になっている。

現地調査は、平成27年5月23日より10月12日まで、延べ10日間にわたって実施した。

平成27年5月23日 調査地の確認

- ① 6月13日 植物相調査
- ② 7月 8日 植物相調査
- ③ 7月12日 植物相調査
- ④ 7月22日 植物相調査
- ⑤ 8月19日 植物相調査
- ⑥ 9月 5日 植物相調査
- ⑦ 9月30日 植物相調査
- ⑧ 10月 4日 植生調査
- ⑨ 10月12日 補充調査

## 1. 植 生

沼の植生がよく残っている沼の南部を、主な抽水・浮葉・沈葉植物群落と水湿環境の草本群落を中心に、適宜コトラートを設け群落調査を実施した。

調査の結果は表 1.2.3 の組成表に纏めてある。

### 主な植物群落

#### 1. 抽水植物群落

ヨシ群落は、沼につくられた畔状の道に沿うように巾の狭い群落をつくり、面積は思ったより広くない。ヒメガマ群落は、抽水植物群落の中で最も広い面積をもち、開放水域の中にも進出している。マコモは、水深のある環境に群落をつくり、開放水域にも進出している。

ミズアオイ群落は水深が深いところでヒメガマやマコモといっしょに群落をつくり、ケイヌビエとイヌビエは水深が浅い岸辺で群落をつくっている。

##### (1) ヨシ群落

岸辺に近いところではオオイヌタデ、ヤナギタデ、セリ、ゴキヅルなどがわずかに混生するが、多くは、浮遊植物のアオウキクサを伴うぐらいで、ヨシ純群落の形を見せることが多い。

##### (2) ヒメガマ群落

全体としては、ゴキヅルを伴うヒメガマ・ゴキヅル群落と呼ぶことが出来る。そのうち簡単な群落構成のヒメガマ・ゴキヅル群落典型群落として、複数のタデ類やカヤツリグサ科植物などを含む群落構成種の多いヒメガマ・ゴキヅルーミゾソバ群落に分けられる。

###### ヒメガマ・ゴキヅル群落典型群落

水深の深いところで浮漂植物アオウキクサを伴っている。マコモ、ケイヌビエ、ウキクサ、ヤナギタデ、オオイヌタデが出現するが、希である。

###### ヒメガマ・ゴキヅルーミゾソバ群落

タデ科のミゾソバ、ヤナギタデを伴う群落で、セリ、ヤノネグサ、タウコギを出現するセリ型とサンカクイ、スジヌマハリイ、フトイのハリイ類の出現するサンカクイ型と、2つの型に分けられる。サンカクイ型には、マツカサススキ、ウキヤガラ、サクラタデ、ヒメサルダヒコ、イボクサの出現が見られる。

##### (3) マコモ群落(マコモ・オオイヌタデ群落)

水深が深い環境のミズアオイが混生する型は、ミズアオイのほかにはマコモ、オオイヌタデが出現するのみの典型群落である。一方、水深が浅い環境のケイヌビエが混生する型

は、ヒメガマ典型群落と共通する種が目立ち、群落構成種数は多いケイヌビエ型と分けられる。

#### (4) ミズアオイ群落

ヒメガマと混生するミズアオイ群落である。チョウジタデ、ヤナギヌカボ、ヘラオモダカも混生状態で出現し、アオウキクサ、ケイヌビエも出現する。

#### ケイヌビエ・イヌビエ群落

ケイヌビエ群落もイヌビエ群落も、オオイヌタデを伴い、水湿地の岸辺の浅い水深の環境に見られ、群落構成の簡単な群落である。

ケイヌビエ群落はヒメガマを、イヌビエ群落はヤナギタデ、ゴキヅルが混生するが、どちらもヒメガマ群落の共通種である。

## 2. 浮葉・沈水・浮遊（浮漂）植物群落

富士沼の調査では、浮葉植物はヒシ1種、沈水植物はエビモ1種、浮遊植物はマツモ、アオウキクサ、ウキクサの3種が確認された。

富士沼のヒシは、生育の最盛期には沼全体の面積の7,8割を被ってしまうほどである。エビモは、1か所だけ、上流からの水路に生えているのを調査した。マツモは水中を浮遊する型、ウキクサは水面を浮遊する型である。

### (1) ヒシ群落

ヒシ群落は、ヒシの純群落、水中を浮遊するマツモを混生する群落、マツモのほかに水面を浮遊するアオウキクサが出現する群落の3つが確認された。

### (2) エビモ群落

エビモ群落は、流れの中に根を張って生育する1か所を調査、純群落である。

## 3. 水湿地路傍植物群落

9か所の方形区を設けて、外来種の優占する群落2ヶ所、植被率が高い群落3ヶ所、全体の植被率が低い群落3ヶ所について調査をした。

### (1) 外来種の目立つ群落

外来種の目立つ群落は、ハウキギクが優占する群落である。同じく外来種のアメリカセンダングサを伴い、在来種ではタコノアシ、タウコギ、トウオオバコが共通に出現する。

ハウキギク群落はシロツメクサが出現する群落と、オオクサキビが出現する群落に区分される。

#### ハウキギク・シロツメクサ群落

ハウキギク・シロツメクサ群落には、マツカサススキ、コブナグサ、ミコシガヤの混生

が目立つ。

#### **ホウキギク・シロツメクサ群落**

ホウキギク・オオクサキビ群落には、セリ、マメクグ、アキノエノコログサ、ヤナギタデが混生し目立ち、アゼムシロ、イボクサも出現する。

### **(2)全体の植被率が高い群落**

群落全体に共通して出現する種は、セリとゴキヅルで、複数回出現する種はクサヨシとミゾソバで、優占度の高い種は、マツカサススキ、クサヨシ、エゾサヤヌカグサ、アキノウナギツカミである。3つの群落に区分できる。

#### **マツカサススキ・クサヨシ群落**

マツカサススキとクサヨシが同じ程度に優占し、ヒメサルダヒコ、ミゾソバ、ミソハギ、オオイヌタデが出現する群落。ホウキギク群落の共通種タウコギ、トウオオバコ、マメクグ、アキノエノコログサ、ヤナギタデも出現して、出現種数の多い群落である。

#### **クサヨシ・ミゾソバ群落**

クサヨシが優占し、ミゾソバを伴う群落。全体の共通種以外には、外来のナガバギシギシが出現するだけの種数の少ない群落である。

#### **エゾノサヤヌカグサ・アキノウナギツカミ群落**

エゾノサヤヌカグサとアキノウナギツカミが混生し、同じ程度に優占する群落。全体の共通種以外には、クサヨシ群落の共通種ミゾソバが出現するだけの種数の少ない群落である。

### **(3)全体の植被率が低い群落**

調査対象全体に、ヨシ、ヤナギヌカボと外来種のセイタカアワダチソウとエゾノギシギシが、共通して出現する。相観的にオオイヌタデ・ヨモギ群落とタカサブロウ・ヤナギタデ群落に区分できるが、イヌタデ、ホウキギク、アメリカセンダングサは共通に出現する。

#### **オオイヌタデ・ヨモギ群落**

オオイヌタデが優占し、ヨモギ、イヌビエを伴う群落。タウコギ、スカシタゴボウ、ケイヌビエ、タマガヤツリ、ヒメムカシヨモギが出現する。

#### **タカサブロウ・ヤナギタデ群落**

タカサブロウが優占しヤナギタデを伴うほかには、オオイヌタデ・ヨモギ群落の共通する種だけの群落。

## 2. 植物相

5月23日に調査地の概略を把握して、6月13日、7月8日、12日、22日、8月19日、9月5日、30日、10月4日、12日の10日間、植物相の現地調査を行った。目視をもとにして記録したが、疑問に思う種は標本を採集して、正確を期すようにした。沼の特徴を現わすと思われる植物については、いっしょに写真を撮影した。

調査で確認した植物の記録を整理して、富士沼の植物目録を作成した。収録したシダ植物2科2種、種子植物72科259種で、計74科261種である。科の配列と学名は「日本の野生植物」によった。帰化植物には(帰化)、栽培植物から野生化にはしたと思われるものには(逸出)と標記してある。

河北町誌に記録にあるハマナス、ハマエンドウ、ミズトクサは、今回は確認できなかった。藻類に該当すると思われる沈水性の植物で、確認できたのはマツモ、エビモの2種のみであった。

### 富士沼の植物目録

#### シダ植物

1. トクサ科	スギナ	
2. イワデンタ科	コウヤワラビ	

#### 種子植物

##### ・裸子植物

1. マツ科	アカマツ	
2. スギ科	スギ	
3. ヒノキ科	ヒノキ	
4. イチイ科	カヤ	

##### ・被子植物

##### ・ ・ 双子葉植物

##### ・ ・ ・ 離弁花類

1. クルミ科	オニグルミ	
2. ヤナギ科	カワヤナギ	
	タチヤナギ	

3.ブナ科	クリ	
	コナラ	
4.ニレ科	ケヤキ	
5.クワ科	ヒメコウゾ	
	クワクサ	
	カナムグラ	
	ヤマグワ	
6.イラクサ科	ヤブマオ	
	ヤマミズ	
7.タデ科	サクラタデ	
	ヤナギヌカボ	県要注目種、国絶滅危惧Ⅱ類
	ヤナギタデ	
	オオイヌタデ	
	イヌタデ	
	オオネバリタデ	
	ヤノネグサ	
	サナエタデ	
	アキノウナギツカミ	
	ミゾソバ	
	ハイミチナヤギ	
	ミチヤナギ	
	ケイタドリ	
	スイバ	
	ナガバギシギシ	
エゾノギシギシ		
8.ヤマゴボウ科	ヨウシュヤマゴボウ	
9.ナデシコ科	オランダミミナグサ	
	ミミナグサ	
	ウシハコベ	
	ノミノフスマ	
	コハコベ	
	ミドリハコベ	
10.アカザ科	アリタソウ	
	アカザ	
	ウラジロアカザ	

10.アカザ科	コアカザ	
11.ヒユ科	イノコズチ	
	ヒナタイノコズチ	
	イヌビユ	
	アオゲイトウ	
12.スベリヒユ科	スベリヒユ	
13.キンポウゲ科	ボタンヅル	
	コボタンヅル	
	ケキツネノボタン	
	タガラシ	
14.マツモ科	マツモ	
15.ケシ科	クサノオウ	
	タケニグサ	
16.アブラナ科	ハルザキヤマガラシ	
	タネツケバナ	
	ヒメグンバイナズナ	
	スカシタゴボウ	
17.ベンケイソウ科	コモチマンネングサ	
	ツルマンネングサ	
18.ユキノシタ科	タコノアシ	国準絶滅危惧
19.バラ科	ヤマブキ	
	クマイチゴ	
	ナワシロイチゴ	
20.マメ科	クサネム	
	ネムノキ	
	イタチハギ	
	ヤブマメ	
	ツルマメ	
	ヤハズソウ	
	ヤマハギ	
	マルバハギ	
	ツクシハギ	
	メドハギ	
	クズ	
	コメツブツメクサ	



20.マメ科	ムラサキツメクサ	
	シロツメクサ	
	ヤハズエンドウ	
	ヤブツルアズキ	
	フジ	
21.カタバミ科	カタバミ	
	エゾタチカタバミ	
22.フウロソウ科	ゲンノショウコ	
	ミツバフウロ	
23.トウダイグサ科	ハイニシキソウ	
24.ミカン科	イヌサンショウ	
25.ウルシ科	ヌルデ	
26.アワブキ科	アワブキ	
27.ツリフネソウ科	ツリフネソウ	
28.クロウメモドキ科	ケンボナシ	
29.ブドウ科	ツタ	
	ノブドウ	
30.スマレ科	スマレ	
31.ウリ科	ゴキヅル	
	アレチウリ	
	キカラスウリ	
32.ミソハギ科	ミソハギ	
	エゾミソハギ	
33.ヒシ科	ヒシ	
34.アカバナ科	アカバナ	
	チョウジタデ	
	メマツヨイグサ	
35.ミズキ科	アオキ	
36.ウコギ科	タラノキ	
37.セリ科	ドクゼリ	
	セリ	
	オヤブジラミ	

## 合弁花類

1.サクラソウ科	オカトラノオ	
2.エゴノキ科	エゴノキ	
3.モクセイ科	マルバアオダモ	
4.キョウチクトウ科	テイカカズラ	
5.ガガイモ科	シロバナノカモメヅル	
6.アカネ科	ヤエムグラ	
	ホソバノヨツバムグラ	
	ヤイトバナ	
	アカネ	
7.ヒルガオ科	ヒルガオ	
8.ムラサキ科	ハナイバナ	
	ヒレハリソウ	
	キュウリグサ	
9.クマツヅラ科	ムラサキシキブ	
10.シソ科	クルマバナ	
	ナギナタコウジュ	
	ヒメオドリコソウ	
	シロネ	
	ヒメサルダヒコ	
	ハッカ	
	ヒメジソ	
	イヌコウジュ	
	アカジソ	
イヌゴマ		
11.ナス科	クコ	
	イヌホオズキ	
12.ゴマノハグサ科	アメリカアゼナ	
	アゼナ	
	キリ	
	タチイヌノフグリ	
	オオイヌノフグリ	

13.オオバコ科	オオバコ	
	ヘラオオバコ	
	トウオオバコ	
14.スイカズラ科	スイカズラ	
15.キク科	ブタクサ	
	オオヨモギ	
	ヨモギ	
	ノコンギク	
	ホウキギク	
	アメリカセンダングサ	
	コセンダングサ	
	タウコギ	
	トキンソウ	
	コスモス	
	キクタニギク	
	タカサブロウ	
	ダントボロギク	
	ヒヨドリバナ	
	サケバヒヨドリ	
	ハキダメギク	
	チチコグサ	
	セイタカハハコグサ	
	チチコグサモドキ	
	ブタナ	
	イワニガナ	
	ユウガギク	
	アキノノゲシ	
	ホソバアキノノゲシ	
	フキ	
	コウゾリナ	
	ノボロギク	
	セイタカアワダチソウ	
	オニノゲシ	
	ヒメジョオン	
エゾタンポポ		

15.キク科	セイヨウタンポポ	
	オオオナモミ	
	オニタビラコ	

## 単子葉植物

1. オモダカ科	ヘラオモダカ	
	オモダカ	
2.ヒルムシロ科	エビモ	
3.ユリ科	ヤブカンゾウ	
4.ヒガンバナ科	スイセン	
5.ヤマノイモ科	ヤマノイモ	
6.ミズアオイ科	ミズアオイ	国準絶滅危惧
7.アヤメ科	キショウブ	
8.イグサ科	イグサ	
	コウガイセキショウ	
	ホソイ	
	クサイ	
9.ツユクサ科	ツユクサ	
	イボクサ	
10.タケ科	マダケ	
11.イネ科	シバムギ	
	カモジグサ	
	スズメノテッポウ	
	ハルガヤ	
	コブナグサ	
	ミノゴメ	
	ヤマカモジグサ	
	イヌムギ	
	キツネガヤ	
	ヤマアワ	
	メヒシバ	
	アキメヒシバ	
イヌビエ		

11.イネ科	ケイヌビエ	
	タイヌビエ	
	ヒエ	
	オヒシバ	
	ヌマカゼクサ	
	シナダレスズメガヤ	
	カゼクサ	
	オニウシノケグサ	
	ヒロハウシノケグサ	
	ナギナタガヤ	
	オオウシノケグサ	
	ネズミムギ	
	アシボソ	
	オギ	
	ススキ	
	ケチヂミザサ	
	オオクサキビ	
	スズメノヒエ	
	クサヨシ	
	ヨシ	
	スズメノカタビラ	
	ヌマイチゴツナギ	
	ナガハグサ	
	ヒエガエリ	
	アキノエノコログサ	
	キンエノコロ	
	コツブキンエノコロ	
	エノコログサ	
	マコモ	
	シバ	
12.カヤツリグサ科	ジョウロウスゲ	県絶滅危惧Ⅰ類、国絶滅危惧Ⅱ類
	アゼナルコ	
	ミコシガヤ	
	タガネソウ	
	アゼスゲ	

12.カヤツリグサ科	タマガヤツリ	
	カヤツリグサ	
	カワラスガナ	
	スジヌマハリイ	県絶滅危惧Ⅱ類、国絶滅危惧Ⅱ類
	マメクグ	県絶滅危惧Ⅱ類
	ウキヤガラ	
	ホタルイ	
	コウキヤガラ	
	マツカサススキ	
	フトイ	
	サンカクイ	
13.ウキクサ科	アオウキクサ	
	ウキクサ	
14.ミクリ科	ミクリ	県準絶滅危惧、国準絶滅危惧
15.ガマ科	ヒメガマ	
	コガマ	
16.ラン科	ネジバナ	

## 特記すべき植物

### 1. スマカゼクサ (イネ科)

関東以西に分布し、四国にまれという日本特産の種で、沼や池のほとりに水に浸かりながら生える多年草。宮城県では初検出。

富士沼の南部で、出水の時にしばしば浸水するおよそ50mの堤に、複数株の生育が確認された。

### 2. スジヌマハリイ (カヤツリグサ科)

砂まじりの湿地に生え、茎に明らかな縦の筋がある多年草。環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類(VU)、宮城県でも絶滅危惧Ⅱ類(VU)にランクされている。宮城県には3ヶ所の産地が記録されている。うち、石巻市(北上川・三輪田)の産地は現状不明。

富士沼には南岸と東岸に複数の産地があり、植生調査の時にも確認されている。

### 3. ジョウロウスゲ (カヤツリグサ科)

50cm前後の茎が株をつくって水辺に生える多年草。名前のいわれは、穂をつけた草の

姿が高<sup>じょうろう</sup>尚なので「上臈(身分高い女官)菅」という。

国内では、関東以北、北海道に分布する。環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、宮城県でも絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)にランクされている。宮城県には三輪田(北上川)、針岡(富士川)の産地があり、2か所とも石巻市である。針岡の産地は沼の下流の富士川で、震災後は河川工事のために環境が変わってしまい現状不明である。

沼の南部の水際に、複数の株が生育をしているのが確認された。そのほかにも、西岸の1か所、道路挟んで山際の湿地に1か所を確認できた。

#### 4. マメクグ (カヤツリグサ科)

北方系の植物で、宮城県以外の産地は不明である。県内には4ヶ所の産地があるが、2か所が石巻市の富士沼、釜谷である。宮城県のレッドデータブックには絶滅危惧Ⅱ類(VU)にランクされている。

沼の南部の水湿地に生えている。個体数は多くはない。

#### 5. ミクリ (ミクリ科)

石巻市の産地の記録は蛇田と長面の2か所であるが、川や沼の調査で産地の数は増えている。沼の南部の水際と東部の沼地の2か所で、複数株、生育しているのを確認した。

環境省レッドリストでは準絶滅危惧(NT)、宮城県でも準絶滅危惧(NT)にランクされている。

#### 6. ヤナギヌカボ(タデ科)

石巻市内の産地として根岸堤、三輪田、中島、中津山が知られている。環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類(VU)、宮城県で要注目種にランクされている。

沼の南部の水湿地に生育し、植生調査の際にも度々出現した。

#### 7. ミズアオイ(ミズアオイ科)

環境省レッドリストでは準絶滅危惧(NT)にランクされている。産地の記録は少ないが、石巻市の水辺の植物としては、やや普通である。

沼の南部や東部に生育し、個体数が多く、大小の群落をつくる。

#### 8. タコノアシ(ユキノシタ科)

石巻市内の産地は、脇谷、中津山、中島、南境、根岸、谷川浜の6か所が記録されている。環境省レッドリストでは準絶滅危惧(NT)にランクされている。

沼の南部の水湿地の環境に生育し、それぞれの個体は小さいが、生育地では数が多くてやや目立つ。

## 富士沼写真

### 特記すべき植物

ヌマカゼクサ



スジヌマハリイ



ジョウロウスゲ



ジョウロウスゲ



マメクグ



ミクリ

ヤナギヌカボ





ミズアオイ



タコノアシ





## 1. 植 生



ヨシ・ヒメガマ・ケイヌビエ



ヨシ・ゴキヅル



ヒメガマ・マツカサススキ



ヒメガマ・フトイ



ヒメガマ・マコモ



セリ・サンカクイ



ミゾソバ





フトイ



ヒメガマ



マコモ・花



マツカサスキ



ミズアオイ



ケイヌビエ





ヒシ・マツモ



マツモ



ヒシ



エビモ



マツカサススキ・ホウキギク群落



オオイヌタデ・マコモ



ヨシ・オオイヌタデ



沼の全景



沼の南部



上流から沼への水路



北岸



東岸



東岸・南



富士川の流入



西岸から東岸



東岸・翁倉山遠望



沼に咲く花



ドクゼリ



マコモ・クサヨシ



ウキヤガラ



ジョウロウスゲ



エゾミソハギ



ミソハギ





ミコシガヤ



アゼナルコ



コバノカモメヅル



ヌマカゼクサ



タチヤナギ



## 押切沼

### はじめに

河南町柏木の押切沼は、周囲およそ300mの小さい沼である。押切沼の北方には今は見渡す限りの水田になっているが、昭和の初めには石巻地方最大の広渕沼の広大な沼の風景が見られたという。広渕沼は名鱒沼を水源として耕地の灌漑用に設けられた大溜池であって、桃生郡誌によれば、沼の周囲2里18町、東西20町10間、北南25町40間と記録されている。

昔の広渕沼周辺で沼の形を残すのは、押切沼しかない。わずかに残された定川水系の沼を調査することにより、地域の植物的自然の特徴を把握する資料としたい。

### 現地調査と沼の植生の概略

調査は、8月26日、9月16日に実施した。

沼の周囲には、樹種は見られず、北西側の県道沿いの低い小さい山には野化したマダケの生育が見られるだけである。

岸に近い浅瀬には草丈の高いマコモの群落が目立ち、沼の中央になると浮葉植物のヒシと浮遊植物のイヌタヌキモが多くなる。沼の北側は、沼と休耕地の境界のはっきりしないところがあり湿地性の植物が生育している。

併せて調査した。

### 沼の植物相

確認したシダ植物以上の維管束植物は32科93種で、そのうち帰化種は18種、栽培種は1種であった。

種類数の多い科をあげてみるとタデ科(6)、キク科(14)、イネ科(19)、カヤツリグサ科(12)となる。

## 押切沼の植物目録

### シダ植物

1. トクサ科	スギナ	
---------	-----	--

## 種子植物

- ・被子植物
- ・ ・ 双子葉植物
- ・ ・ ・ 離弁花類

1.イラクサ科	ヤマミズ		
2.タデ科	ヤナギタデ		
	オオイヌタデ		
	アキノウナギツカミ		
	ミゾソバ		
	ハナタデ		
	ハイミチヤナギ		
3.スベリヒユ科	スベリヒユ		
4.アカザ科	アカザ		
5.ヒユ科	ヒナタイノコズチ		
6.オトギリソウ科	コケオトギリ		
7.アブラナ科	ハルザキヤマガラシ		
	スカシタゴボウ		
8.マメ科	クサネム		
	ツルマメ		
	クズ		
	ムラサキツメクサ		
	シロツメクサ		
9.カタバミ科	エゾタチカタバミ		
10.トウダイグサ科	エノキグサ		
	オオニシキソウ		
	コニシキソウ		
11.ブドウ科	ノブドウ		
12.ミゾハコベ科	ミゾハコベ		
13.ミソハギ科	キカシグサ		
14.ヒシ科	ヒシ		
15.アカバナ科	チョウジタデ		
	メマツヨイグサ		
16.セリ科	セリ		

16.セリ科	オヤブジラミ		
--------	--------	--	--

合弁花類

1.ガガイモ科	ガガイモ	
2.アカネ科	アカネ	
3.シソ科	ヒメジソ	
4.ゴマノハグサ科	キクモ	
	アゼナ	
5.タヌキモ科	イヌタヌキモ	県絶滅危惧Ⅱ類、 国準絶滅危惧
6.キキョウ科	ミゾカクシ (アゼムシロ)	
7.キク科	オオブタクサ	
	ヨモギ	
	アメリカセンダングサ	
	タウコギ	
	トキンソウ	
	ヒメムカシヨモギ	
	ハキダメギク	
	オオジシバリ	
	アキノノゲシ	
	ノボロギク	
	セイタカアワダチソウ	
	ヒメジョオン	
	セイヨウタンポポ	
	オオオナモミ	

単子葉植物

1.オモダカ科	サジオモダカ	準絶滅危惧
	オモダカ	
2.ミズアオイ科	コナギ	
3.イグサ科	コウガイゼキショウ	
4.ツユクサ科	ツユクサ	
	イボクサ	
5.タケ科	アズマネザサ	

	アズマザサ	
	マダケ	
6.イネ科	キツネガヤ	
	メヒシバ	
	アキメヒシバ	
	イヌビエ	
	ケイヌビエ	
	タイヌビエ	
	オヒシバ	
	オオニワホコリ	
	オニウシノケグサ	
	アシカキ	
	エゾノサヤヌカグサ	
	アシボソ	
	ススキ	
	ヌカキビ	
	クサヨシ	
	ヨシ	
	アキノエノコログサ	
	エノコログサ	
	マコモ	
7.カヤツリグサ科	タマガヤツリ	
	ヒナガヤツリ	
	カヤツリグサ	
	ウシクグ	
	カワラスガナ	
	ミズガヤツリ	
	ハリイ	
	ヒメクグ	
	ウキヤガラ	
	ホタルイ	
	シズイ	
	サンカクイ	
8.ガマ科	ヒメガマ	

## 注目すべき植物

### イヌタヌキモ(タヌキモ科)

石巻市の産地は、蛇田1ヶ所のみであるが、産地の周辺は開発により失われてしまった。

国のレッドブックでは準絶滅危惧(NT)のランクであるが、宮城県の改訂されたレッドデータブックでは、新たに絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。

捕虫囊をもつ食虫植物のイヌタヌキモは、水中を浮遊する植物であるが、押切沼では、ヒシの間に混じって多数生育する。沼の水位が低くなって陸地化した岸边には、花径を出して、開花する個体も見られる。

沼・北から——→東



沼・北から ——→中



沼・北から——→西



ヒシ・イヌタヌキモ群落



イヌタヌキモ





イヌタヌキモ・花



キクモ



ヒナガヤツリ



エゾノサヤヌカグサ



コナギとイボクサ

平成27年度石巻市自然環境確認調査

## 大 沢 堤

### はじめに

旭山の北西麓に位置する大沢堤は、むかし、灌漑用として設けられた代表的な溜池である。

現在、堤は埋め立てられて、広場が出来るとともに、周囲に柵などが設けられて、以前と比べて面積は狭くなり、植物への影響も大きいと思われた。

### 植生と植物相の概略

9月16日、堤の周囲を回って、主だった植物群落と植物種を記録した。植生と植物相の概略を報告する。

堤の水草群落は、浮葉植物のヒシ群落、小規模の抽水植物のマコモ群落とヨシ群落が見られるだけである。

浮遊植物はヒシ、ウキクサ、抽水植物はヨシ、マコモ、ウキヤガラ、ガマ、クサヨシが見られた。水辺の生える草としては、サクラタデ、ミゾソバ、ハナタデ、ツリフネソウ、スズメウリ、カラハナソウが見られた。その他在来種の草本には、ユウガギク、アキノノゲシ、ノブドウ、オクマワラビ、アカネ、イノコヅチ、クズ、ススキ、ヤブカンゾウがある。

外来種には、アメリカセンダングサ、アレチウリ、カモガヤ、ヒメジョオンが見られた。

水辺にはカワヤナギ、オニグルミ、ヤマグワ、ケヤキ、ケンポナシ、アズマネザサが見られた。



堤——→西南



堤——→西北



堤——→南





ガマ



アレチウリ



マコモ・花

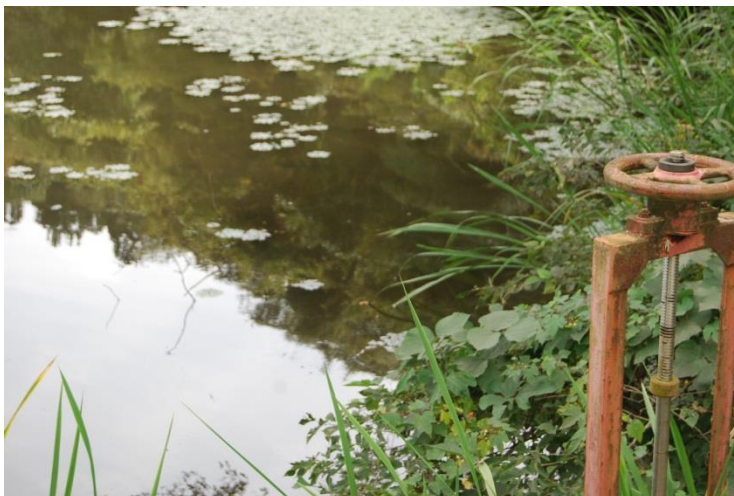




ツリフネソウ・花



沼・ヒシ群落



堤・排水管